

### 「6年後、同窓会でまた会いましょう」

活動主体：認定こども園たちばな保育園

／場 所：認定こども園たちばな保育園園庭（茨木市）

たちばな保育園は茨木市の住宅街にある保育園です。平成30年の大阪府北部地震で前の園庭が使えなくなったのを契機に、周辺の住宅地を新たに園庭としました。新たな園地は元が住宅地ということもあり、みどりがなかったことから、子供たちにも普段から自然にふれ、自然の草花、木、生き物で遊んでほしいと思い、本事業を活用されました。



植樹は令和3年度の年長組の卒園を記念して、年長組と地元の方、保護者の方の総勢約120名で行いました。令和3年度の年長組のみなさんは入園以来、大阪府北部地震や新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、保育園の行事が中止になってきました。「少しでも園外での行事をやりたい」との思いがあったと保育園の方はおっしゃってられました。

「今回植えたハナミズキの下でまた同窓会ができればいいね、年長組のみんなが小学校を卒業する6年後にまた会おうね」と約束して卒園していったとのことでした。

卒園した先輩たちが植えた木は春から夏にかけて花が咲きました。子供たちから「棒だと思ってたのに花が咲いた！」と反応もあり、遊びの中から自然の不思議を学ぶ助けとなっています。



### 「“木を植える”という初めての体験」

活動主体：うらら幼稚園／場所：うらら幼稚園園庭（枚方市）

枚方市内にあるうらら幼稚園は、昭和45年の創立時から園を見守るサクラや松のほか、ザクロや柿、ビワ、ミカンなどの果樹もたくさん植えられています。今回、「さらに“みどり”を増やし、子どもたちにもっと触れてもらいたい」という園長先生の強い思いから、本事業を活用されました。



「子どもたちにとって、木というのは、当たり前で園庭や公園に“植わっている”もので“植える”という感覚はなかったと思います。今回、そんな“植える”という初めての体験を、年長組さんで楽しんで体験することが出来ました。子どもたちと一緒に、今回植えた木も大きく成長して行ってほしいです。」と先生はおっしゃっていました。これから、園を見守るサクラや松のように、大きく育ち、さらに緑あふれる園庭になるのが楽しみです。



### 「桜の下でお花見を楽しめる未来を目指して」

活動主体：津堂地区／場所：津堂八幡神社（藤井寺市）

世界遺産「百舌鳥・古市古墳群」のひとつ、「津堂城山古墳」の中に位置する「津堂八幡神社」は、古墳内に入れる珍しい神社として、地域の方はもちろん、市外からも多くの方が訪れる場所となっています。

津堂城山古墳には、100本以上の桜の木があり、毎年春には桜祭りが開催されるなど、地域の方々にとって桜の木は親しみのある木でした。しかし、近年では老朽や台風などによる倒木が増え、一面の桜景色に変化が生じています。

そこで、「もう一度桜を復活させて、地域みなさんに喜んでほしい。桜をいっぱい増やしていきたい。」という想いから、本事業を活用した植樹活動が実施されました。

木が大きく育ち、綺麗な花が咲くことをイメージしながら、みなさんで植樹されたとのことで、津堂区長さんは、「今回植えた桜が早く大きくなって、桜祭りの開催や、桜の下でお花見をするのが今から楽しみです」とおっしゃっていました。



### 「桜の名所「山中溪」を次世代に引き継ぐために」

活動主体：山中溪自治会／場所：わんぱく王国 他（阪南市）

山中溪は大阪府内でも指折りの桜の名所で知られている景勝です。桜の開花時期には約1000本の桜並木が一斉に咲き誇ります。

桜並木は、地元の山中溪自治会をはじめとした桜を愛する皆様により維持管理されています。自治会のメンバーも高齢化している中、メンバーで分担して草刈りや枯死枝の剪定、桜の樹勢を衰えさせる蔓や害虫やイノシシ対策を実施しています。



長年、山中溪の桜並木を見守ってきた山中溪自治会の皆さんによると、一部の桜は樹齢80年以上となり徐々に樹勢も衰えてきているとのことで、次世代に山中溪の桜を引き継いでいくため、毎年、植樹活動を実施しています。

今回は溪谷沿いだけでなく、近隣の家族連れにも人気の公園で、毎年、桜の開花時期に開催される「山中溪桜祭り」の会場となっている「わんぱく王国」にも植樹しました。

自治会長さんは、「今年はコロナウイルス感染防止のため、「山中溪桜祭り」は中止になったが、その代わりに開催した「葉桜祭り」に3000人も来てくれた。それくらい山中溪の桜と自然は近隣の人たちに愛されている。今後も、山中溪の桜は次世代に引き継いでいくため、1本でも2本でも桜を増やし、地域全体を巻き込んだ活動としていきたい。」とおっしゃっておられました。

